

STOP戦争法岡山の会が 5月24日(火)

「黒石健太郎さんを囲む会」を開催

STOP戦争法岡山の会は5月24日(火)、岡山県野党共闘統一候補者の黒石健太郎さんを囲む会を開き、ご本人の立候補に至る経過や社会や政治に対するお考えを聞きました。会場には26人が参加して、野党共闘への期待や年金・社会保障、消費税増税、憲法9条への思いを伝え交流しました。



黒石健太郎さんは、「黒石健太郎さんを囲む会というタイトルの催しは初めて。これまでは江田五月さんの後継として紹介されてきた。」と切り出し、「まずは一本化してもらって、マスコミのマイナス評価がプラ

スになり少しずつ前進してきた。しかし、まだ劣勢の感はない」と実感を語りました。

そして、「共産党とは戦争法廃止で一致している。学生時代に憲法の担当教授が長谷部恭男さんだった。その教授も戦争法が憲法違反だと言った。大多数の憲法学者、国民の過半数以上が反対する中で施行された。しかし、反対意見はマスコミも含めて封殺された。自分も戦争法反対の宣伝をしていると、入れ墨をした人たちに囲まれ、罵声を浴びせられた。政権に反対意見を述べると自由な政治活動もできなくなる。報道もできな

い。いろんな圧力が掛かることを今回の選挙で実感してきた。

ポスターを張っていても自民の支持者と思われる方から、誰の許可で張ったのか?とクレームをつけられた。住民の方からも地域からの圧力で『ごめんね。剥がして』と連絡が来るなど今回、自民党の圧力を痛感した。これが現実だ。自民党の憲法案では表現の自由は抑制される。これからの国の方向を決める大切な選挙になる」と話し、立候補してからの権力や自

民支配の行動を「変えたい」と決意を語りました。

また、労働の分野でもやりたことがあるとして、「「リーマンショックの時に愛知県でリクルートの仕事していたが、派遣切りされた労働者支援の活動に参加したことを契機に貧困と格差の問題を考え、政治を変え

署名の集約数
5月27日現在
203,474 筆

る必要性を痛感した。」として、「誰もが安心して暮らせる社会をめざすのが初心」と語りました。

STOP戦争法岡山の会は、戦争法を廃止するための運動組織ですが、その運動が参議院選挙の統一候補者を生み出すまでに発展し、黒石健太郎さんとの今回の交流は人柄を知って、奮闘しようとする人たちの力になりました。

運動はこれからです。さらに運動を大きくして、黒石さんが自信をもって選挙に臨み、勝利の展望を見えるように、街の雰囲気を変えるのは私たちの役割です。



STOP戦争法2000万署名推進ニュース
【部内資料】 2016年5月30日(月) 第14号

発行 STOP戦争法岡山の会
連絡先 署名集約担当事務局・岡山県革新懇
メール kakusinokayama@Kra.biglobe.ne.jp
ファクス (086) 250-5806

テーマは「経済的徴兵制」

講師の布施さん（平和新聞編集長）は、「自衛隊応募者数は年々低下しており、これにたいして防衛省は民間の雇用活力が上昇しているというが、内部資料を見ると集団的自衛権行使容認の影響が指摘されている。」と指摘した。

そして、「組織的募集を強化する方策として学校や職安などの地方公共団体との協力体制が強化されている。これと同じようなことがアメリカではすでに行われており、アフガニスタン、イラク戦争の際には、経

済的メリットの強調、学校へのアクセスが行われた。貧困や各家庭の経済的背景を利用して安定的に兵士を補充しようとする目的がある」とアメリカの状況を解説しました。

さらに、「戦争法によって日本でも同じことが行われるのではないと考えられる。防衛省内部でも、戦後の若い世代に愛国心を教え込み、防衛意識を高めることは無理。むしろ経済的メリットを強調すべきとの分析がある。事実、自衛隊の志望者は貧しい地域に偏っている。そこで、自衛隊はインターンシップ・プログラムをつくり、民間企業の企業研修を請け負うことや、若手の漫画家に対して基地の見学などを行っている」と自衛隊もアメリカに近づきつつあることを訴えました。



また、布施さんは、「これまでは専守防衛だった自衛隊が戦争法で根底から変わろうとしている。自衛隊の中央即応集団(第3) 箱芳文陸幕長は『本派遣の意義は、国益擁護に直結した初の統合任務部隊による国際活動であり、陸自全般の国際活動能力の向上と、他国駐留軍との関係強

化が望める』と述べている。自衛隊の目的がいつの間にか海外における国家目的と国益追求、戦略的利益へと変わっている。既に日本政府はジュチにある自衛隊の駐留基地を恒久化しようとしている。経済的利益のためなら多少の犠牲は止むを得ないという考えが根底にはある。そのため、安倍政権は愛国教育に加え国防・安全保障問題までも教育に盛り込むようとしている」と話しました。

最後に、「経済的徴兵制とは戦争リスクを貧困層に押し付けるもので、自衛隊の海外進出を後押しするものだ。背景にあるのが、大企業の経済利益追求があり、そのために戦争で人が死んでも構わないというのが決して許すことばできない」と訴えました。

5月29日、岡山県民医連定期総会（写真・右）で黒石健太郎さんが来賓としてあいさつしました。総会に引き続き、29日の午後には、「いま私たちが主人公」（写真・左）が開かれ約250名が参加しました。



◆総がかり実行委員会の呼びかけに応じて、6月5日(日)は、すべての自治体、行政区で、多様なアクションで、国会包囲行動に連携しよう！

【岡山市では、岡山市駅前(マツキヨ前、さんすて前)で13時30分～12時30分、宣伝、署名行動を行います。】

◆総がかり岡山県実行委員会は、6月12日(日)に、2000万署名の全県行動を呼びかけます。【岡山市では、岡山駅前(マツキヨ前、さんすて前)で13時30分～14時30分に署名、宣伝します。】